

強い農業づくり総合支援事業の取組事例(平成28~29年度:事業実施主体:八戸市)(青森県)

取組の概要

対象品目

青果(ながいも、だいこん、白菜、レタス等)

成果目標1

低温売場販売率が低温売場面積率を超過

基準(H26年度)低温売場面積率 12.4%

目標(R元年度)低温売場販売率 18.6%

成果目標2

物品・残さ・包装容器の処理コストを1.2%以上削減

基準(H26年度) 2,474千円

目標(R元年度) 1,952千円 (△21.1%)

導入施設等

八戸市中央卸売市場低温卸売場 825㎡



ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

八戸市中央卸売市場における青果部卸売場は、屋根と柱を主とした開放型の構造であるため、外気の影響を受けやすく、夏季の高温及び冬季の低温による品質劣化に伴う商品ロスや販売機会ロス等が課題となっていた。



【卸売市場としての持続性を確保し、収益力を向上するための方策】

商品が高温・低温・風雨等の影響を受けないよう、低温卸売場を整備することにより、コールドチェーン体制を確立し、地域特産品であるながいも、だいこん等の青果物の商品価値の向上及び商品ロスを削減する。

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ① 低温卸売市場での販売率向上
- ② 商品ロス・残さ処理コスト低減

【事業実施による間接効果】

- ① 市場関係者によるコールドチェーン体制確立への寄与
- ② 青果物の取引量の拡大

推進体制

県
(総合販売戦略課)

指導・助言

事業実施主体
・事業計画策定
・事業実施

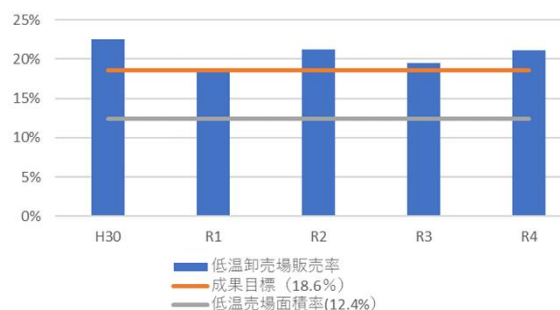
卸売業者等
市場関係者

計画策定に係る
要望・連携

地域における独自の取組

- ・全国トップクラスの生産量を誇る、ながいも、にんにく、ごぼうの一大産地
- ・大粒おうとう品種「ジュノハート」のブランド化推進。

低温卸売場販売率



残品・残さ等の処理コスト

